



文部省檢定濟

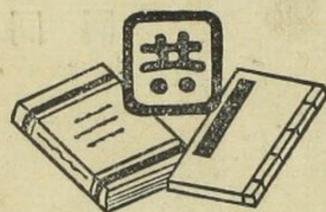
尋常  
小學  
唱歌

諸教科統合

定國教科書準據

第三學年下





文部省檢定濟

# 尋常小學唱歌

第三學年下

東京高等師範學校教授 佐々木吉三郎  
學習院教授 納所辨次郎 共編  
東京高等師範學校教諭 田村虎藏

發行所

株式會社 國定教科書共同販賣所

## 緒言

本書は、現今、尋常小學校の唱歌教授に、適切なる教材を供給せんとして、編纂したるものなり。而して、其教材は尋常科第一學年より、同第四學年に至るまで、各學年各學期に配當したれば、順次編を逐ひて、教科用書に充て得べきものとす。編纂の際、特に注意せる諸點を擧ぐれば、左の如し。

一、題目、修身・國語の國定教科書に關係を有する事項、兒童の實際生活に親しき事項等に取り、以て、各教科の統一を圖り、兒童の心理的要求に適應せしめんと力めたり。

一、歌詞、初學年には、多年、小學教育に經驗を有する人の、手になれるものにつき、平易にして理解し易く、而も、詩的興味

を失はざるものを選び、漸く進みては、當代名家の作を加へ、以て、純正なる思想感情の養成に資せんとせり。

一、曲節、編者多年の研究に鑑みて、兒童發達の程度を精察し、音程・音域の如何を審査し、初は、快活にして勇壯なるものより、漸次に、優雅にして醇美なるものに進め、以て、審美的感情を育成せんことを期せり。

以上の外、音楽上並に教授上の、詳細なる注意等に至りては、不日公けにすべき、教授用書に詳説すべし。

明治三十八年五月廿八日

編者識

目次

一 羽子.....	二	六 兔.....	二六
二 豊臣秀吉.....	四	七 百舌鳥.....	一八
三 恩知る犬.....	八	八 北白川宮.....	二〇
四 雪合戦.....	三	九 別れの歌.....	二四
五 不倒翁.....	一四		

目次

一





一、ヒーフーミーヨ、  
 いつもかはらぬ、ともだちと、  
 はご板 かかへて、かど松の、  
 うちにあつまる、たのしさよ。

二、イームーナーヤ、  
 ここにかしこに、むらがりて、  
 朝からなかよく、むつましく、  
 はねつく心の、うれしさよ。』

は  
ご  
大和田氏

羽 子

(ハ調二拍子)

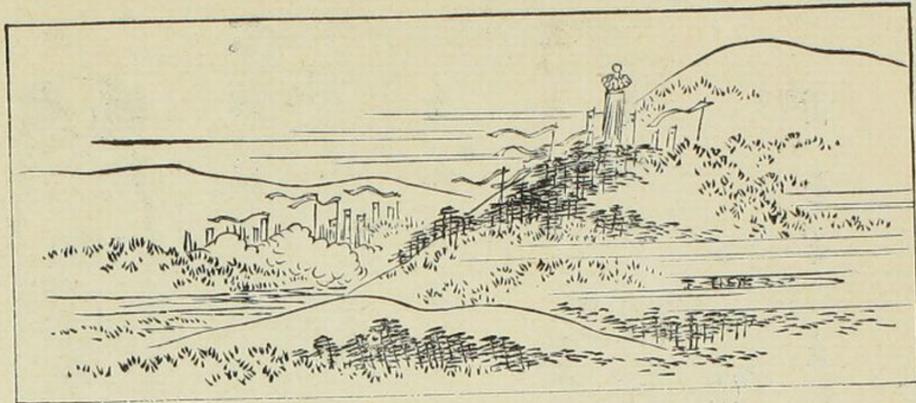
樂シゲニ 納所氏

1. ヒーフーミーヨイツモカハラヌトモダチト  
 2. イームーナーヤココニカシコニムラガリテ

ハゴイタカカヘテカドマツノ  
 アサカラナカヨクムツマシク

ウチニアツマルタノシサヨ  
 ハネツクココロノウレシサヨ





二、はじめは織田おだの、ぞりとり

清洲きよすのしろの、手入れていれには、

さすがあゆの、信長のぶながも、

そのすばやさに、かんどけり。

三、なかほどしゅくんの、とむらひ戦たたか、

そのぎも高し、天王山てんのうさん、

さすがぶどの、光秀みつひでも、

たちまちやぶれ、ほろびたり。

四、をはりはかんばく、ほーたいこー、

あーせんこくの、せいばつに、

さすかの大明たいめい、國王こくわうも、

つひにわをこそ、こひにけれ。

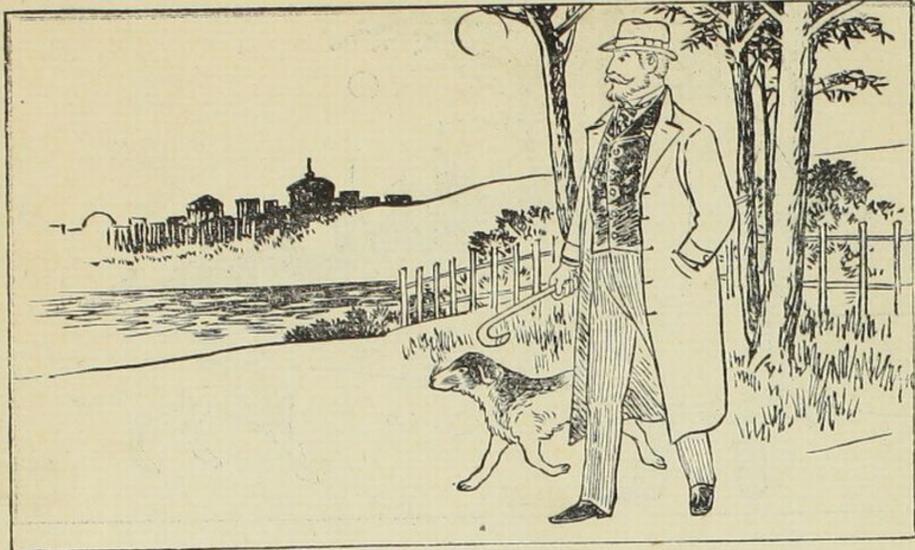
五、あー、ひくきより、身をおこし、

天下てんかをたひらげ、國くにのいいを、

海外かいがいまでも、しめしたる、

いさをは高し、ほーたいこー。』





おん知る犬

ふたりいでゆく、  
やみのみち。

ある夜もこれを、  
ひきつれて、

かひたる人の、  
ありけるが、

あいかし一つの  
あいかし一つの  
あいかし一つの



おん知る犬



大和田氏

恩知る犬

(變ろ調二拍子)

哀情ヲ以テ

田村氏

恩知る犬



1. △ カ シー ヒ ト ツ ノ ア イ ケ ン チ  
2. イ カ ガ ハ シ ケ ン タ チ マ チ ニ



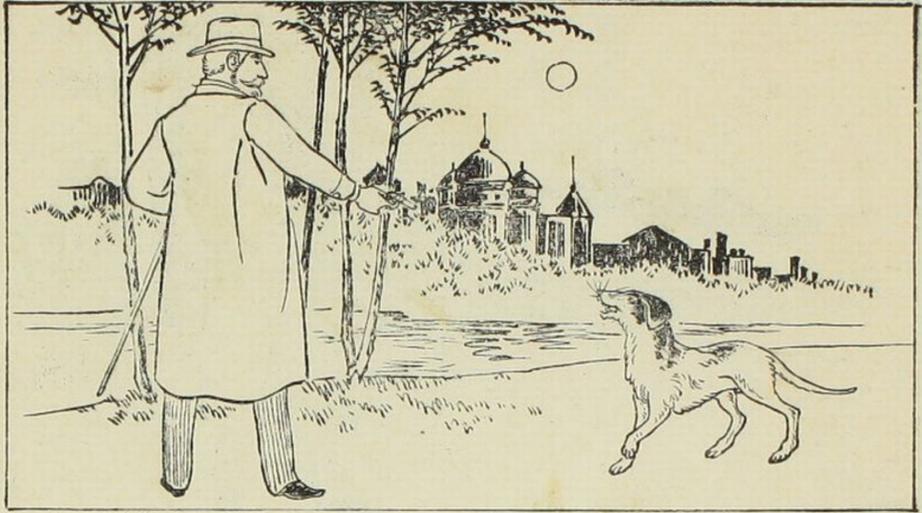
カ ヒ タ ル ヒ ト ノー ア リ ケ ル ガ  
イ ャ ハ シ ュ ツ ニ ホ エ ク ル ヒ



ア ル ヨ モ コ レ ナー ヒ キ ツ レ テ  
カ ミ モー ツ ク ベ キ サ マ ナ レ バ



フ タ リ イ デ ユ ク ヤ ミ ノ ミ チ  
ウ テ ド シ カ レ ド ヤ マ バ コ ソ



一〇、いかがはしけん、たちまちに、

犬は主人しゆじんに、ほえくるひ、

かみもつくべき、噛さまなれば、

うてどしかれど、やまばこそ。」

三、果はては主人も、きょーけんと、

おもひさだめて、むざんにも、

ピストルはなちて、うちたふし、

やうやく家に、かへり來ぬ。」

四、あと おひかけて、死したりと、

おもひし犬は、かへりしが、

見れば主人の、おとしける、

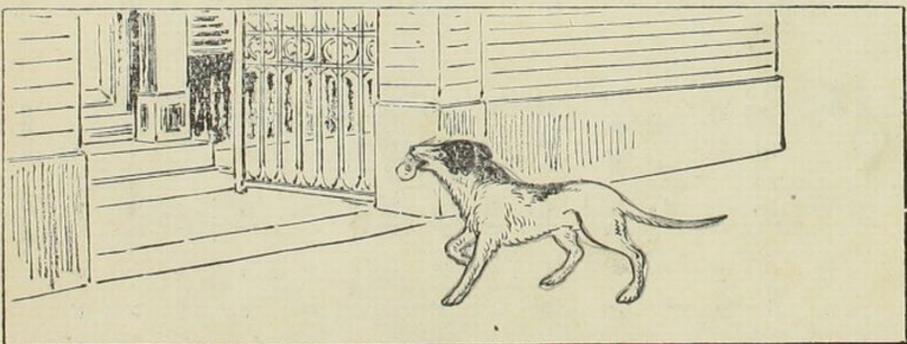
さいふ財布を口に、くはへたり。」

五、さてはこのこと、知らさんと、

うたるるまでも、ほえけるか、

ほえて うたれて、たふれても、

主人のおんを、わすれずに。」



一、ふりつむ 雪を、かためては、  
 てんで に、うちだす、だんがんの、  
 くだけて ちらかる、白<sup>しろ</sup>けむり、  
 たたかひ 今ぞ、さかん なる。」

二、みかたの しろは、松の した、  
 てき の とりでは、へい の そば、  
 見る見る たがひに、入り みだれ、  
 とっかん しんげき、一ど 三ど。」

三、やがて かきね の、ふもとより、  
 をどり 出でたる、けっしたい、  
 これを あひづ に、わが 軍の、  
 そーこーげき は、はじまりぬ。」

四、目に もの 見せて、くれんずと、  
 いきほひ こんで、うつつ たまに、  
 ときは いよいよ、みだされて、  
 しろ あけいよ、わたし、にげてゆく。」



雪がっせん 大和田氏

雪合戦

(と調二拍子)

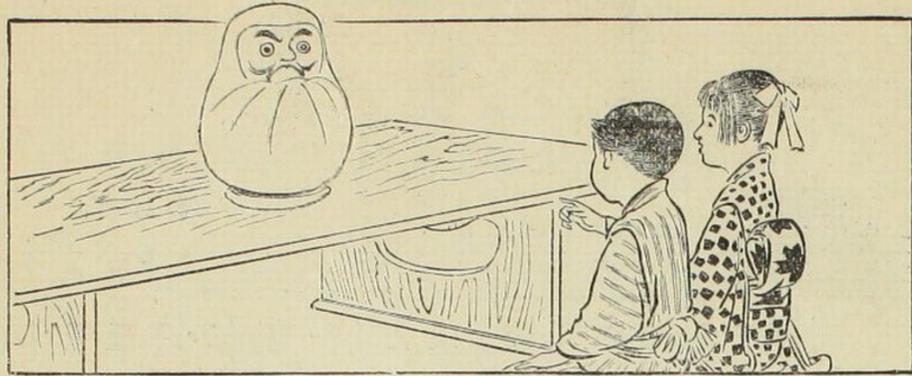
快活 = 納所氏

1. フ リ ツ ム ユ キ チ カ タ メ テ ハ  
 2. ミ カ タ ノ シ ロ ハ マ ツ ノ シ タ

テ ン デ ニ ウ チ ダ ス ダ ン ガ ン ノ  
 テ キ ノ ト リ テ ハ ヘ イ ノ ソ メ

ク ダ ケ テ チ ラ カ ル シ ロ ケ ム リ  
 ミ ル ミ ル タ ガ ヒ ニ イ リ ミ ダ レ

タ タ カ ヒ イ マ ツ サ カ ン ナ ル  
 ト ッ カ ン シ ン ゲ キ ニ ド サ ン ド



だるま

一、なげたとて、 けったとて、  
 たふれ ころんで、 よいものか、  
 足が なくても、 手が ないとても、  
 ころばぬ じゅつは、 わが このむねに、  
 ひとり が てん の、 おもしろや。  
 二、ひととせ や、 ふたとせ に、  
 一 年 が わかって、 二 年 よいものか、  
 九年 の 月日、 かんがへ こんで、  
 さとり ひらいた、 ころばぬ じゅつは、  
 口 に いはれぬ、 字 にかけぬ。



だるま

蘆田氏

# 不倒翁

(に調二拍子)

爽快ニ

楠美氏

不倒翁

1. ナ ゲ タ ト テ ケ ッ タ ト テ  
 2. ヒ ト ト セ ヤ フ タ ト セ ニ

タ フ レ コ ロ ン テ ヨ イ モ ノ カ  
 コ レ ガ ソ カ ッ テ ヨ イ モ ノ カ

ア シ ガ ナ ク テ モ テ ガ ナ イ ト テ モ  
 ク ネ ノ ツ キ ヒ カ ン ガ ヘ コ ン テ

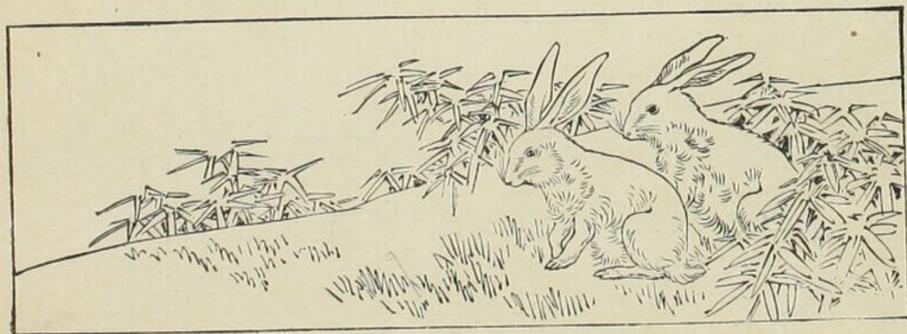
コ ロ バ ヌ ジ ャ ツ ハ フ ガ コ ノ ム ネ ニ  
 サ ト リ ヒ ラ イ タ コ ロ バ ヌ ジ ャ ツ ハ

ヒ ト リ ガ テ ン ノ オ モ シ ロ ヤ  
 ク チ ニ イ ハ レ ヌ ツ ニ カ ャ

一、「うさぎ、うさぎ、うさぎさん、  
 おまへの耳は、どうしてそんなに長いの。」  
 「みみよ、みみよ、わたしのみみは、  
 かすかな おとも、きこえる ために。」

二、「うさぎ、うさぎ、うさぎさん、  
 おまへの毛色は、どうしてそんなにかはるの、  
 「けいろよ、いろよ、わたしの色は、  
 野山や草木に、まぎれる ために。」

三、「うさぎ、うさぎ、うさぎさん、  
 おまへの前足、どうしてそんなに短いの。」  
 「あしよ、あしよ、わたしの 足は、  
 けはしい さかも、かけあがるため。」



# 兔

(に調二拍子)

快活 =

田村氏

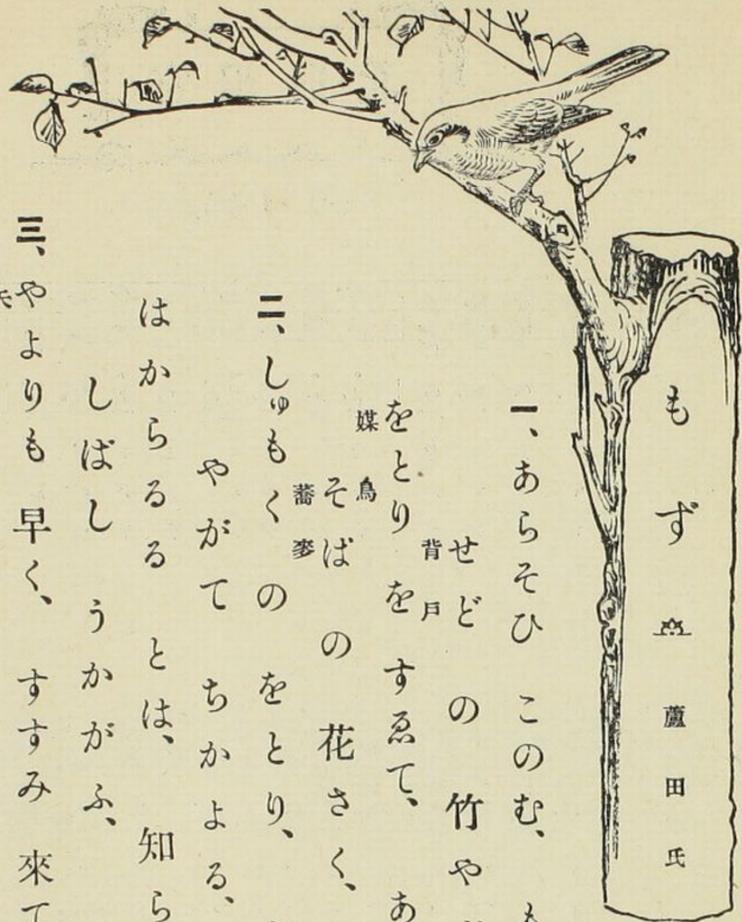
兔

Musical notation (treble clef, 2/4 time) with lyrics: 1. ウサギ ウサギ ウサギ サン オマへの

Musical notation (treble clef, 2/4 time) with lyrics: ミミハ ドウシテ ソンナニ ナガイノ

Musical notation (treble clef, 2/4 time) with lyrics: ミーミヨ ミミヨ ヲタシノ ミミハ

Musical notation (treble clef, 2/4 time) with lyrics: カスカナ オトモ キコエル タメニ



一、あらしひこのむ、もすがなく、  
 をとり せどの竹やぶ、さわがしや、  
 二、しゅもく そばの花さく、はたのなか。  
 やがて あかよる、やぶのもず、  
 はからるるとは、知らずして、  
 三、やよりも早く、すすみ来て、  
 やがて けいだす、友のうへ、  
 かちてその身は、とられたり、  
 あらしひこのむ、もずのはて。』

もず

一九



# 百舌鳥

(に調二拍子)

快活ニ

岡野氏

百舌鳥



5. 5 6 5 | 3. 2 1 3 | 2. 1 2 3 | 5 0

1. アラソヒ コーノム モズガナク  
 2. シュモクノ ナートリ トモヨベバ  
 3. ヤヨリモ ハーヤク ススミキテ



5 6 7 | 1. 7 6 5 | 6. 5 3 2 | 1 0

セドノ タケヤア サラガシヤ  
 ヤガテ チカヨル ヤアノモズ  
 ヤガテ ケイダストモノウヘ



2. 1 2 3 | 5. 5 3 6 | 5. 3 1 2 | 3 0

ナトリチ スーエテ アレトラウ  
 ハーカラ ルルトハ シラズシテ  
 カーチテ ソノミハ トラレタリ



5. 5 6 7 | 1. 1 5 6 | 4. 3 2 3 | 1

ソーバノ ハナサケ ハタノナカ  
 シーバシ ウカガフ キノエダニ  
 アラソヒ コーノム モズノハテ

一八

# 北白川宮

(變ほ調二拍子)

北  
白  
川  
宮

誠ヲ込メテ 納所氏

1. 1. 1. 1. | 3. 2. 1. 1. | 7. 6. 1. 2. | 3. 0.

1. メ イ ツ ノ ニ ヲ ヲ ハ チ ネ ン ニ  
2. チ ョ ー ド ロ ク ガ ツ シ チ ガ ツ ノ  
3. ミ ヤ ハ ナ ン ギ チ イ ト ハ レ ズ

2. 2. 3. 4. | 3. 2. 3. 3. | 5. 6. 5. 4. | 3. 0.

タ イ ヲ ン ト ニ ー オ コ リ タ ル  
ア ツ サ キ ビ シ キ ソ ノ ウ ヘ ニ  
ク ン ツ ン ド モ チ ー ハ ゲ マ シ テ

11

2. 2. 3. 4. | 5. 5. 4. 3. | 4. 3. 2. 2. | 1. 0.

ワ ル モ ノ ド モ チ シ ツ メ ン ト  
ミ ー ツ ハ ス ク ナ ク シ ョ ク タ ラ ズ  
ス ス ン テ セ ー メ テ ワ ル モ ノ チ

# 北白川宮

(つづき)

北  
白  
川  
宮

6. 6. 6. 6. | 1. 1. 7. 7. | 6. 1. 7. 6. | 5. 0.

キ タ シ ラ カ ハ ノ ー ミ ヤ テ ン カ  
ヤ ー マ ハ ケ ハ シ ク ミ チ ワ ル シ  
オ ホ カ タ ホ シ ツ メ ナ サ レ シ ニ

5. 5. 6. 6. | 5. 5. 3. 3. | 4. 3. 2. 5. | 5. 0.

オ ホ ク ノ ケ ン ツ ン ヒ キ ツ レ テ  
イ ク サ ニ ツ ー ヨ キ ク ン ツ ン モ  
フ ト ゴ ビ ヲ ー キ ニ ー カ カ ラ レ テ

10

6. 6. 1. 1. | 5. 5. 3. 3. | 4. 3. 2. 2. | 1. 0.

イ サ ン テ オ イ テ ー ナ サ レ タ リ  
コ ノ ナ ン ギ ニ ハ ー ヨ ワ リ タ リ  
チ ー シ ヤ オ カ ク レ ナ サ レ タ リ

北白川宮 讀本

一、明治の二十八年に、

臺灣島に おこりたる

わるものどもをしづめんと、

北白川宮殿下、

多くの軍人ひきつれて、

勇んで、おいでなされたり。」

二、ちよーど、六月、七月の

暑さきびしき、そのうへに、

水はすくなく、食たらず、

山はけはしく、道わるし。

いくさにつよき軍人も、

このなんぎには、よわりたり。」

三、宮は なんぎを いとはれず、

軍人 どもを はげまして、

すすんで、 せめて、 わるものを、

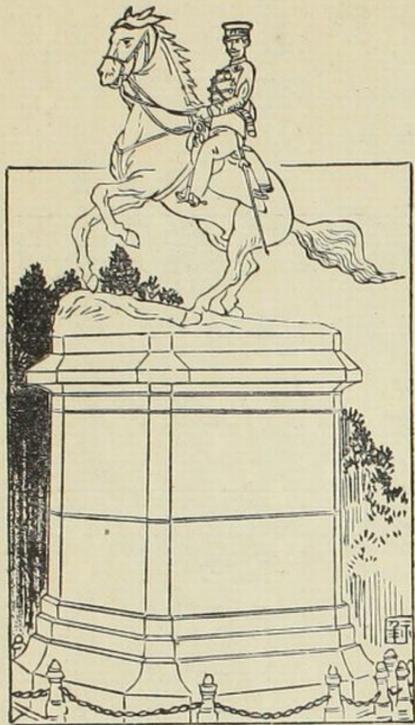
おほかた、 おしづめなされしに、

ふと、 御病氣に

かかられて、

をしや、 おかくれ

なされたり。」



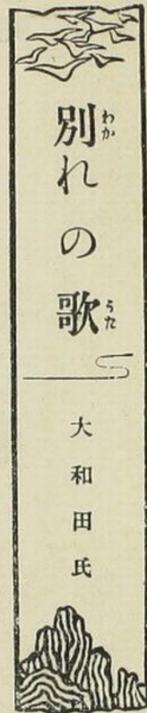
北白川宮

わかれのうた

一、一つの森に、  
 うたひ あひたる、  
 けふは東に、  
 野への鳥  
 なごりをしくも、  
 西北に、  
 わかれゆく。

二五

二、わかれし後も、  
 おもひは出でよ、  
 出で入る道の、  
 つゆふかく、  
 うけしをしへの、  
 このにはを。



別れの歌

大和田氏

別れの歌

(ハ調四拍子)

誠ヲ込メテ 西洋曲

*mf*

5 | 1. 1 1 3 | 2. 1 2 3 | 1 1 3 5 | 6- 0 |

1. ヒ トツノ モ リーニ ム ツ マシーク  
2. ヲ カレテノ チーモ ア サユフーニ

6 | 5. 3 3 1 | 2. 1 2 3 | 1. 6 6 5 | 1- 0 |

ウ タ ヒ ア ヒ ター ル ノ ベ ノ トー リ  
オ モ ヒ ハ イ デー ヨ ウ チ ツ レー テ

*f*

6 | 5. 3 3 1 | 2. 1 2 6 | 5. 3 3 5 | 6- 0 |

ケ フー ハ ヒ ガ シー ニ ニ シ キ ター ニ  
イ デ イ ル ミ チー ノ ツ ユ フ カーク

*mf*

6 | 5. 3 3 1 | 2. 1 2 3 | 1. 6 6 5 | 1- 0 ||

ナ ゴ リ チ シ クー モ ヲ カ レ ユー ク  
ウ ケ シ チ シ ヘー ノ コ ノ ニ ハー ナ

別れの歌

二四



明治二十九年一月十三日印  
 明治二十九年一月十七日發  
 明治二十九年九月二十七日訂正再版印刷  
 明治二十九年九月三十日訂正再版發行

尋常小學唱歌第三學年下

定價金拾錢

著作者 佐々木吉三郎

同 納所辨次郎

同 田村虎藏

發行者 東京市日本橋區新右衛門町十六番地 株式會社 國定教科書共同販賣所

代表者 大橋新太郎

印刷者 東京市京橋區築地三丁目十一番地 野村宗十郎

印刷所 東京市京橋區築地二丁目十七番地 株式會社 東京築地活版製造所

明治三十三年九月十日  
 文部省檢定  
 尋常小學學校唱歌教科書用



東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發行所 株式會社 國定教科書共同販賣所